

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	<p>⑮東日本大震災津波の様子と被害の状況</p> <p>平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解し、自分たちに今できることは何かを考える。</p>	総合的な学習の時間
<p>【題材】 復興教育学習 ～被災地訪問や被災地とのかかわりを中心に～</p> <p>【対象】 5年・6年・職員</p> <p>【実践の概要】</p> <p>1 被災地現地学習会</p> <p>(1) 陸前高田市内の語り部による見学 旧気仙中学校・一本松付近、旧市役所付近</p> <p>(2) 三陸鉄道南リアス線に乗車して車窓からの見学</p> <p>(3) 釜石市シープラザ釜石での買い物</p> <p>(4) 復興学習新聞作り</p> <p>2 大船渡市立越喜来小学校とのかかわり</p> <p>(1) 5・6年総合学習で収穫した米の贈呈</p> <p>(2) 募金の贈呈</p> <p>【実践の詳細】</p> <p>これまでの復興教育学習の経過</p> <p>平成23年度 文房具などを家庭から持ち寄り被災地に寄贈 平成24年度 「被災地の体験を聞く会」対象：全学年 講師：被災地の学校から転勤してきた職員 平成25年度 「東日本大震災に学ぶ」親子講演会 対象：3年以上の児童、保護者 講師：被災地勤務経験のある教育委員会職員 平成26年度 陸前高田市、大船渡市、釜石市等 被災地現地学習会</p> <p>1 被災地現地学習会（7月30日）</p> <p>(1) 陸前高田市内の語り部による見学 津波により甚大な被害を受けた陸前高田市を観光物産協会の語り部に案内してもらった。児童は、海に近い旧気仙中学校前では、高いところに逃げるのが大切だということを知り、七万本あったといわれる高田松原の松がたった1本だけ残し奪い去ってしまうほどの津波の威力だったということに驚いていた。</p> <p>(2) 三陸鉄道南リアス線に乗車しての車窓見学 盛駅から復興災害学習列車に乗車し釜石駅に向かった。途中、ホームに降りて駅周辺の様子を説明してもらったり、命を亡くした人々の冥福を祈り手を合わせたりした。車窓からは、防潮堤等の復興工事が盛んに行われている様子が見られる反面、陸に打ち上げられたままになっている船、草に覆われ荒れ果てた農地や住宅地もあり、児童は復興はまだまだ途上だと感じたようである。</p>		
		
		
		
		
		
		

(3) シープラザ釜石での買い物

自分たちにできることはないだろうか、買い物をすることも被災地のためになるのではないかと考えさせた。当日は被災地で製造されたものを中心にお土産として買い物をしていた。



(4) 復興学習新聞作り

被災地現地学習で目と心で学んだことを新聞にまとめた。新聞作りでは、自分たちに今できることは何かを考えさせた。そして出来上がった新聞は、コピーして親戚や友人に送り、広く震災を伝えようとしていた。



2 大船渡市立越喜来小学校とのかかわり

(1) 5・6年総合学習で収穫した米の贈呈

例年行っている米作りで収穫した一部を贈った。

(2) 募金の贈呈

これまでも行ってきた募金活動だが、今年は学習発表会に合わせ、保護者や地域の方々にも協力を呼びかけた。決して高額ではないが復興を願う気持ちを伝えることができた。



【まとめ】

私たちに今できること (児童の復興学習新聞より抜粋)

- 復興教育学習を通して、多くの人や家、家族を亡くした人が多いことが改めてわかりました。ぼくたちにできることは、募金、その町でできた物を買うことかなと思いました。そして一番家族を大切にすることを心がけるというか、一番大切にしたいと思いました。
- 私は、震災のことを忘れないことが、今からできる復興につながるのだと思います。店のレジにある復興支援募金箱に募金したり、被災地を元気にするイベント等に参加したりしたいです。そして思いやりをもって過ごすことが一番大切だと思います。相手のことを思いやって行動していれば、自分が困ったときにその人に助けられるかもしれません。よいことをすればよいことが返ってくるかもしれません。これからやってみようと思いました。
- 沿岸に行って私は考えました。私たちにできることは、まわりの人を思いやることだと。被災地の人たちはたくさんの方々とは協力し合って生きています。悲しいことや楽しいことがあっても優しい心をもっていきます。私たちは今、まわりの人を思いやるのが最も大切なことだということに気付きました。誰とでも仲よくする、協力していく被災者の方々に感動しました。わたしもそのような人になりたいです。

考察

この被災地訪問は、現在の被災地の状況を感じ取り、今後自分達に何ができるのか、どのようにしていったらよいのかを考えるきっかけとなった。また、最後に新聞にまとめ発信することにより、この震災を風化させず今後の復興を考えていくことの大切さを広めることができた。